

「SSにおける高齢者等送迎サービス用カーシェアリングの 事業化可能性実証調査事業」報告書(概要紙)

1. 背景・目的

(1) 背景

燃料油需要の減少に加え、顧客ニーズの多様化や競争激化が進む中、SSが事業を存続させるためには、従来の燃料油販売を中心とした経営から、油外収益を拡大する経営にすること重要であり、カーケア、物販、カーリース等に加え、地域のニーズに対応した新たなサービス展開による事業の多角化が求められている。

(2) 目的

本実証事業は、SSが燃料油販売を中心とした経営から、油外収益の拡大を通じた経営とするため、経営基盤を構築することを支援し、SSの事業存続と地域における燃料安定供給体制の確保に貢献することを目的としている。

2. 事業内容

(1) 実証内容

本事業は、SSのカーシェアリングを活用して、SSと契約した協力会員が、車両を利用して移動困難者に送迎サービスを提供するビジネスモデルについての事業化可能性を調査するものである。

(2) ビジネスモデルの特徴とサービスの流れ

SSはカーシェアリング事業を既存のレンタカー事業と組み合わせることで、平日の車両稼働率を向上させ、安定的な収益を期待できる。協力会員は必要な時だけ車両を利用でき、効率的にコストを抑えつつ、地域住民に移動手段を提供できる。

本ビジネスモデルは、協力会員のニーズに合致し、SSにとっても経済的なメリットがあるため、成り立つと見込まれる。

- SSがカーシェアリング用の車両を用意し、予約・管理システムを構築。
- 協力会員は、移動困難者の送迎ニーズに応じてSSと契約し、車両利用料を支払う。
- 利用者は協力会員に送迎を申し込み、サービスを無料で利用できる。
- SSは車両のメンテナンスや予約システムの管理を行う。
- 地方公共団体は地域ニーズの把握、関係者との調整、事業周知・利用促進を行う。

(4) 実証実施地区の特性と状況

実施は北海道札幌市、東京都板橋区、岡山県新見市、山口県宇部市、沖縄

「SSにおける高齢者等送迎サービス用カーシェアリングの 事業化可能性実証調査事業」報告書(概要紙)

県八重瀬町の 5 カ所で行った。各地域とも高齢化が進行し移動困難者が増加している。

- 札幌市白石区の高齢者構成比は 25.8%(2023 年)。
- 新見市の高齢者構成比は 43.9%(2023 年)。
- 板橋区は公共交通網が発達しているが、地域によってはサービスが不足。

3. 事業の結果・成果

全国 5 カ所での実証事業を通じて、協力会員の参加が得られ、移動困難者支援の重要性が認識された。今後の課題として、サービスの標準化や運営体制の確立が挙げられる。

- 12 件の企業・団体が協力会員として参加。
- 地方公共団体からの理解と協力が得られた。
- 標準契約書、運行管理マニュアル、協力会員向け案内文書等を作成した。

4. 今後の課題と取組

今後は、協力会員との連携を強化し、実際の送迎サービスの実施を通じてデータを分析する計画がある。安全管理や運行管理の強化も重要な取り組みとなる。

- 走行実証を行い、稼働率やコストを分析。
- 予約・配車・顧客管理システムの導入を検討。
- 予約受付や運転手の教育体制の構築が必要。
- 地方公共団体との連携を強化し、地域交通計画との整合性を確認。
- 地域経済の活性化を目指す。

以上